

ALAIN SARDE & RUTH WALDBURGER
PRESENT

GODARD DEPARDIEU

HELAS POUR MOI

ゴダールの決別

ジャン＝リュック・ゴダール・最新監督作品・ジェラルド・パルデュー・主演

せつなどは加速する。

ALAIN SARDE & RUTH WALDBURGER PRESENT : GERARD DEPARDIEU DANS HELAS POUR MOI
UN FILM DE JEAN-LUC GODARD . UNE CO-PRODUCTION LES FILMS ALAIN SARDE • VEGA FILMS • PERIPHERIA
ET UNE COPRODUCTION DE LA TELEVISION SUISSE ROMANDE (T.S.R.) • AVEC LA PARTICIPATION DU DEPARTEMENT FEDERAL DE L'INTERIEUR • COFIMAGE 4 ET INVESTIMAGE 4 ET AVEC LA PARTICIPATION DE CANAL +
FESTIVAL DE VENISE 1993
PAN-EUROPEENNE

◆出演◆ロランス・マスリア/ベルナール・ヴァルレイ◆撮影◆カロリース・ジャンプテエ◆録音◆フランソワ・ミジ◆配給◆コムストック

●1993年フランス・スイス合作/カラー/1時間24分/ワイドサイズ/ドルビーステレオ © Les Films Alain Sarde, Vega Films

HELAS POUR MOI

●解説●

ジャン＝リュック・ゴダールは「愛」の作家である。

ジ

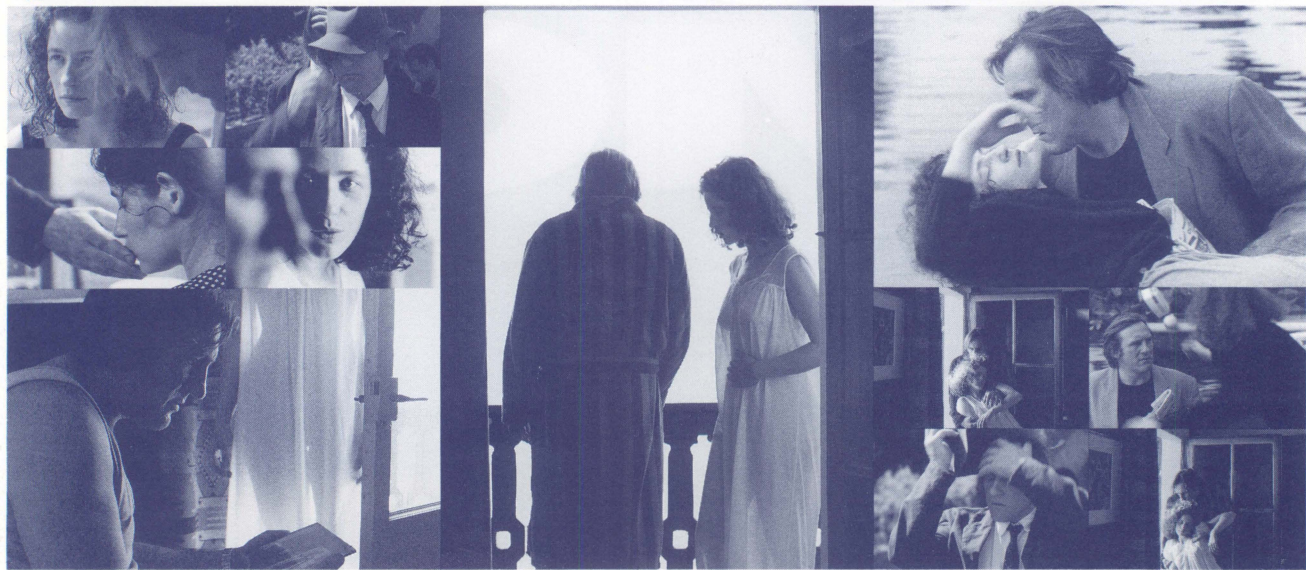
鮮烈なるデビュー作「勝手にしやがれ」や、続く「気狂いピエロ」など、スピード感あふれる若い男女の愛の暴走を描き、戦後の映画史を塗りかえてしまった男—それがジャン＝リュック・ゴダールである。美術でいえば、ピカソ、ロックでいえば、ローリング・ストーンズに比肩する世界最大最強の映画監督、そんなジャン＝リュックの最新作が本作「ゴダールの決別」である。

アラン・ドロンをむかえて撮った「ヌーヴェルヴァーグ」、ドイツ統合直後の旧東ドイツを舞台に政治、哲学、文学、芸術、映画を横断する「新ドイツ零年」以来、常に話題を提供し続けてくれるゴダールだが、本作ではデビュー当時の清しさを復活させ、「『軽蔑』以来の傑作。もともと豪華で贅沢な仕事」（仏ヌーヴェル・オブセルヴァトゥール誌）、「他の遊星から落ちて来た隕石のかけらのように美しい」（仏フィガロ誌）と本国でも大絶賛を浴びた。

ヨーロッパ映画界を代表する名優ジェラルド・フィリップを主演に、ギリシア神話をモチーフとして、神々の王でありながら浮気癖のある「ゼウスの神」が人間の肉体を借り美しい人妻と不倫の関係を結び、密通を続けるという名高いエピソードを描く。

「ゴダールの決別」は「ヌーヴェルヴァーグ」と同じく、ゴダールの故郷であり、現在も住み続けているスイスのレマン湖畔を舞台に、その美しい風景にクラシックの名曲の数々を絡ませた、もはや芸術すら凌駕したジャン＝リュック・ゴダールの一大「愛の叙事詩」である。

撮影は自然光を駆使し、美しい映像でゴダール作品の常連カラー・ヌ・シャンブティエ（「右側に気をつけろ」）、音響は「パッション」以降、ゴダール作品に欠かせないフランソワ・ミュージーが起用され、音楽にはバッハ、チャイコフスキー、ショスタコーヴィッチ、ベートーヴェン、オネゲルの曲を使用。主役以外のキャストではアブラハム・クリムト役に、ロメルの「愛の屋下がり」のベルナール・ヴェルレイ。当初小さな役だったオード・アミオは創造的に現場に参加、脚本以上に重要な役を演じた。



●物語●

イス・レマン湖のほとりに暮らす、ごく普通の一組の夫婦、シモンとラシェル。

ある日、妻のラシェルは一抹の不安に襲われ、町の牧師に告白をする。「わたしは肉体による結び付きの脆さを知りました。自分の相手が、夫なのか、神なのか分からないのです」と…。

そもそもの事の起りには、自動車修理工場を営む夫シモンが、友人とホテルを買収する件で打ち合わせがあるとあって、一晩、家を空けた日に始まった。妻は夫に女ができて帰って来なかったのだと思ってしまう。

ある晩、夫にロブけをされた妻は、彼の様子がおかしいので、病気がかかると疑うが…。

そしてとうとう、ラシェルは決意する。「まるで別のあなたみたいだ」と打ち明けたラシェルに、「そう、僕は君の愛人だ」と答えた男は、紛れもなく夫シモンの姿をしているが…。

彼はにわかに天地創造の秘密を語りだし、貞淑な女の肉体を求め貫いた末、自分はシモンの身体に乗り移った神だと言いはじめる。

いったい何が起ったのか!!

アブラハムという男が、この出来事を調査しに町へやってくるが、シモンに乗り移ったのは全能の神「ゼウス」であった!!

『ゴダールの決別』【海外評】

●モリエール、ジロドゥに続いてJ-L.G（ジャン＝リュック・ゴダール）が『アムビュリオール』をリメイク。『軽蔑』以来の傑作。

ゴダールはまた、キュビズムを再発明した。外観の勝利である。

………
或るショットは、ヴァン・ゴッホを思わせる。また或るショットはニコラ・ド・スタールを。或る句はマラルメの引用である……

………
ところでスタールもマラルメもつまりゴダールに似ている。

………
「ゴダールの決別」は、彼の最も豪華で贅沢な仕事である。

【ヌーヴェル・オブセルヴァトゥール誌】

●「ゴダールの決別」は他の遊星から落ちてきた、穴だらけの隕石のかけらのように美しい。
【フィガロ紙】

夏休みロードショー!!

○特別鑑賞券…●¥1,400 (当日一般¥1,800/大高¥1,500の処:税込)

○ペア券 ……●¥2,600

●劇場窓口、チケットセゾンチケットぴあ、都内各プレイガイドにてお求め下さい。

【プレゼント】劇場窓口にて特別鑑賞券、ペア券をお求めの方には、素敵な特製ポストカード(限定非売品)をさしあげます。

銀座テアトル西友

地下鉄銀座線京橋駅下車・2番出口上る

☎03(3535)6000

1	2	3	4	5
11:40	1:30	3:20	5:10	7:00